

地 理 歴 史

『地理総合、地理探究』

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

新課程に対応した試験科目として『地理総合、地理探究』が新たに実施された。第 1 問から第 6 問における 30 の設問で構成され、学習指導要領の「地理総合」及び「地理探究」の大項目を踏まえた出題であり、第 1 問と第 2 問は「地理総合」との共通問題、第 3 問から第 6 問は「地理探究」の「A 現代世界の系統地理的考察」、「B 現代世界の地誌的考察」、「C 現代世界におけるこれからの日本の国土像」に関わる出題であった。

問題作成方針では、学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、地理に関わる事象を多面的・多角的に考察、構想する過程が重視されている。なお、評価に当たっては、報告書（本試験）21ページに記載の 8 つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第 1 問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第 2 問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第 3 問 世界の自然環境と自然災害に関して、地図や資料から情報を読み取り、地理的事象に関する知識を基に、場所や、人間と自然環境との相互依存関係等に着目して、諸地域の地形や気候、自然災害や気候変動、地形変化等について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問 1 地図と文章を照合し、プレート運動及び氷河地形に関する知識を基に、世界の地形を概観する問題。

問 2 世界各地の火山噴火に伴う影響とその被害について述べた文章を基に、様々な火山災害の特徴を空間的・時間的スケールから考察する良問。

問 3 世界のいくつかの地点における最暖月と最寒月の降水量を示した図を読み取り、気候による降水パターンの特徴について、気候の分布と関連付けて考察する問題。

問 4 オーストラリアの林野火災地域を示した二つの図から分布を読み取り、オーストラリアにおける気候の季節変化と関連付けて考察する問題。

問 5 北極の海氷面積、東京の気温、ハワイの二酸化炭素濃度の月平均値の推移を示した図について、気候変動に関する知識を基に、適切な指標を判断する問題。

問 6 丘陵地の開発に伴う地形変化を地図から読み取り、盛土地における災害への脆弱性について考察する問題。

第 4 問 世界の資源と産業に関して、多様な資料を読み取り、地理的事象に関する知識を基に、空間的相互依存作用や地域に着目して、現代世界の農林業における生産・流通・消費や地域ごとの産業構造や変容等について考察する問題によって構成されている。

問 1 農民 1 人当たり穀物生産額と耕地 1 ha 当たり穀物生産額を示した散布図を基に、分類された国々について、それぞれの農業の特徴を判断する問題。

- 問2 日本及び三つの国における穀物消費量の用途別割合を示した資料から読み取った内容
と、各国の穀物消費に関する特徴や傾向性を関連付けて考察する問題。
- 問3 世界の木材伐採量、輸出量、輸入量上位5か国について、各指標を判断する問題。
- 問4 外国からの直接投資の受け入れ額と国外出稼ぎ者からの送金額について、4か国の経済
水準や国際的な人口移動を想起して、各国の特徴を考察する良問。
- 問5 いくつかのサービス産業の従業者数について、日本全体に占める都道府県ごとの割合を
示した主題図を読み取り、各産業の立地特性等の概念を基に、地域的分布の差異を考察する
良問。
- 問6 いくつかの都府県における工業出荷額第1位であった業種を年次別に示した資料を基
に、各都府県の主産業を想起して、各都府県の産業構造の特徴やその変化を考察する良問。
- 第5問 都市や人口に関して、位置や分布、空間的相互依存作用等に着目して、都市や人口等の
地理的事象に関する知識を基に、多面的・多角的に考察する問題で構成されている。
- 問1 三つの国におけるいくつかの都市圏の人口分布についての資料を読み取り、国土の広が
りや経済の発展段階等による都市システムの違いを考察する問題。
- 問2 日本の大都市における大企業の本社数と支所数についての資料を読み取り、日本の都市
システムを考察する良問。
- 問3 住に関連した地理的事象についての階級区分図を読み取り、東京とその周辺の市区町村
における空間構造を考察する問題。
- 問4 高度経済成長期に大都市圏への人口流出が大きかった県における人口動態についての
資料を読み取り、人口動態及びその背景と影響を考察する問題。
- 問5 ヨーロッパの二か国における都市の分布と中枢管理機能の配置についての主題図を読
み取り、それぞれの都市システムの特徴を考察する問題。
- 第6問 北アメリカと中央アメリカに関して、多様な資料を読み取り、対象地域に関する知識を
基に、空間的相互依存作用や地域等に着目して、自然環境、国境の景観、産業や人種・民族構
成の特徴、特徴的な輸出品、海外旅行者数等について、思考力、判断力を測る問題で構成され
ている。この地域における様々な地理的事象の共通性や多様性、結び付きを問うている。
- 問1 北アメリカや中央アメリカにおける三つの緯線に沿った年降水量を示した資料を読み
取り、地理的条件がこの地域の気候に与える影響について考察する問題。
- 問2 アメリカとカナダ、メキシコの国家間の関係性と、写真から読み取ったそれぞれの国境
の景観を関連付けて考察する問題。
- 問3 中央アメリカの国々における農地面積割合やGDPに占める第三次産業の割合、人種・
民族構成に占めるアフリカ系の割合を示した主題図を読み取り、歴史的背景等に着目し、各
指標を判断する問題。
- 問4 自動車と石炭・石油・天然ガスについて、アメリカ、カナダ、メキシコ間の輸出総額の
推移を読み取り、各国の産業の動向に関する知識を基に、貿易関係の変化を考察する良問。
- 問5 カナダ、キューバ、メキシコのインバウンド数に占めるヨーロッパからの旅行者数の割
合と、インバウンド旅行者に対するアウトバウンド旅行者数の比率の違いを表から読み取り、
3か国の経済水準等の地理的条件による違いを考察する問題。

3 分量・程度

第1問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第2問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第3問 基本的な知識・技能やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問1は、氷河地形が生み出される地理的条件についての理解が求められる。問3は、リード文でケッペンの気候区分について触れられているものの、気候区分の細かな知識を問うものではない。資料や文章量ともに適切である。

第4問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問3、問4は、リード文や資料が端的ながら、思考力を問うことができる設問である。資料や文章量ともに適切である。

第5問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。問2は、提示された本社数と支所数の違いが都市システムとどのように関連しているのかを考察する必要がある、都市の位置や都市圏の構造についての知識の有無によって差が表れた。資料や文章量ともに適切である。

第6問 全体として基本的な知識やそれを基にした思考力を問う問題で構成されているが、細かい知識が求められる問題もあり、やや難易度が高い。問3は、示された三つの指標を関連付けて考察しにくく、特定の国の指標に関する知識の有無が解答の鍵となったであろうと推測される。問5は、資料から読み取れる特徴と各国の地理的条件が結び付けにくく、難易度が高い。

4 表現・形式

第1問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第2問 （『地理総合／歴史総合／公共』の「地理総合」と共通のため省略。）

第3問 多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する出題形式で適切である。問3では、リード文中の「気候帯」という語が指している内容が分かりにくく、受験者の学びに即した表現を求めたい。

第4問 多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する出題形式で適切である。問6は、各都府県における産業構造の変化を表す興味深い資料であったものの、特定の県に関する知識のみで正答を選ぶことができってしまう構成となっており、より思考力を問うことのできる資料の示し方や問い方の工夫を求めたい。

第5問 大問全体を通じて、都市の規模や機能の違いとそれがもたらす課題をテーマとした、「持続可能な国土像の探究」を意図したと思われる場面設定がなされ、「地理探究」にふさわしい出題形式である。問1は、都市圏の定義が国によって異なるため、注釈でその旨を明記したり、本問における定義を付したりする等、受験者が困惑することのないような配慮が必要である。問4は、持続可能な国土像を探究する上で重要な視点である。単に人口の増減の考察にとどまらず、大都市に労働力を送付してきた地域のその後の変容を、より多面的に考察する出題の工夫が必要である。

第6問 多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する出題形式で適切である。写真、図、表等の各資料がバランスよく用いられていた。

5 ま と め（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って、学習指導要領において育成を目指す資質・能力を測定するための良問で構成されている。特に、高等学校教育で身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くための文章や統計資料、主題図といった様々な資料の読解力が試される試験となっている。

第2問で場面設定がなされ、地域調査を実施する場合に着目すべき地理的事象とその分析視点等、地域調査の進め方が各設問に意識された構成となっている。また、第1問では、場面設定はなされていないものの、設問間で学習内容のつながりを感じることが出来る出題となっており、実際の授業場面を想定した工夫がなされている。第5問は、都市の規模や機能の違いとその課題について、「持続可能な国土像の探究」を意図したと思われる場面設定がなされ、地理探究にふさわしい出題形式である。第4問は、問3や問5など基本的な知識を基に考察する問題と、問1や問6など資料を基に地理的な見方・考え方を働かせて考察する問題とが適切に配置されている。一方で、全ての大問が、本試験における『地理総合、地理探究』とおおむね同じ分野やテーマについての内容、配列となっており、追試験受験者は本試験での大問構成を参照できたため、結果的に取り組みやすかった側面があったと推察される。また、新課程初年度における『地理総合、地理探究』の試験であることから、今回の本試験及び追・再試験の大問構成やそこで扱われる分野が固定的とならないよう、多様な大問構成の在り方を今後も模索されることを期待したい。

全体的には適正な難易度であり、受験者にとって初見となる資料が付された問題もみられたが、与えられた資料から情報を読み取り、解答することが可能であった。しかし、第6問の問3、問5は、細かい知識が求められたことや、資料から読み取れる特徴と各国の地理的条件が結び付けにくいこと、着眼点が分かりづらいこと等により、やや難易度が高かった。引き続き、高等学校教育の学習実態に即した程度や表現・形式に留意して問題の対象地域を精選したり、注釈を加えたりといった改善をお願いしたい。

全体を通して、高等学校での学習内容を基にした思考力を問う問題や探究活動の過程を再現する問題が随所にみられ、高等学校における授業改善の指針となる試験である。